

“もったいない”でごみ減量！

考えてみよう！ “ごみ” のこと。

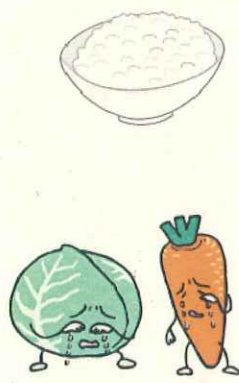
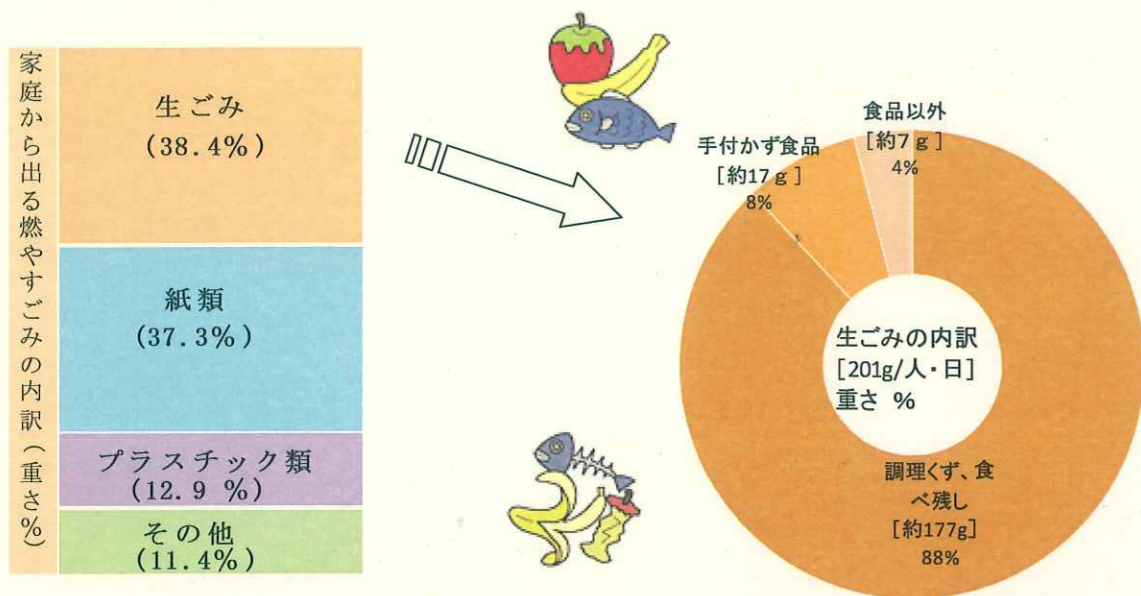
京田辺市民の一人一日に出す全てのごみ量は、888.5グラム でした。
(平成 22 年度、人口は 10.1 現在)

その内、各家庭から出る燃やすごみ量は、一人一日に 527.6 グラム でした。

生ごみ

“生ごみ” 食事から出るごみについて考えましょう。実は、この食べ残しや調理くずなどの生ごみは家庭から出る燃やすごみの約 4 割も占めており、その約 1 割が手付かずの食品です。

さあ、みんなで毎日の暮らしの中でごみを減らしはじめましょう！



メモ (めやす)

- ・ごはん (1 ばい) 約 150g
- ・レタス (1 こ) 約 300g
- ・タマネギ (1 こ) 約 200g
- 生ごみの約 80% は水分です。生ごみの水切りで、生ごみの重さの約 10% を減らすことができます。
『生ごみの水切りでごみ減量』
- ・1 家族あたり 1 年間に約 16kg のごみ減量になります。

生ごみを減らすポイントは3つのR!

生ごみは出てしまうもの。
でも、ちょっとしたアイデアや工夫で減らすことができます。
家族みんなで取り組める方法を話し合い、やってみましょう。

R educe 減らす

(リデュース)

★一番大切な取組です。

ポイントは「買いすぎない」「作りすぎない」「たのみすぎない」「食べ残さない」です。

- ・ムダなものは買わない。
- ・食材の残り状況をチェック
- ・食材の保存に工夫
- ・食べる分だけ作る。
- ・食材をしょうずに使い切る。
- ・生ごみを水にぬらさない。

R euse 再利用

(リユース)

★繰り返し最後まで使おう。

捨ててしまう前に、食材として何かに使えないか工夫してみましょう。

- ・残りものからメニューを考える。
- ・味付けや調理方法をアレンジ

R ecycle 再生利用

(リサイクル)

★資源に戻そう。

私たちの手で、生ごみは“有機資源”へとリサイクルできます。生ごみの水切りは堆肥化へチャレンジする際にも、ごみとして捨てる際にも大切な取組です。

- ・生ごみの水切りをする。
- ・生ごみは乾かしてから
- ・生ごみの堆肥化にチャレンジ

買い物・食材保管 (家族で話し合おう。)

ムダなものは買わない

特売日や大安売りで、ついつい衝動買いをして、その食材を使わなかったり、使い切れずに腐らせたりしたことはありませんか？ 無計画な買い物は、生ごみを増やしますし、家計にもひびきますね。

できるだけ、“必要なときに必要な分だけ買い物”することを心がけましょう。

食材の在庫状況をチェックする

日頃から、冷蔵庫や食品庫が片付いていると、忙しい合間でも、買い物前に食材の在庫状況を素早くチェックすることができます。食材の二重買いや期限きれの食品を減らすこともできますよ。

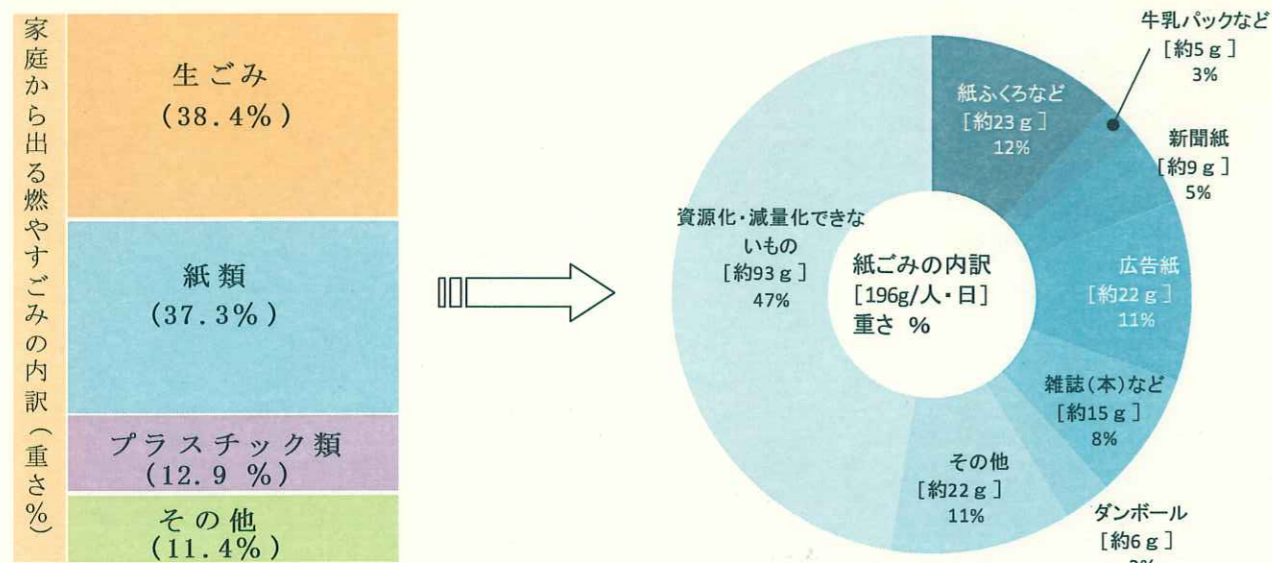


紙ごみ

“紙”の原料はパルプになる木材チップ（間伐材や端材を利用）や古紙からできています。

紙はリサイクルに適した地球環境にやさしい素材です。紙のリサイクルを進めることは、木材資源の有効利用になるだけでなく、省エネルギーやごみの減量などにも役立ちます。

例えば、牛乳パック約6枚から、トイレットペーパーが1個できます。



メモ1 (めやす)

・紙ふくろ 50g	・本の紙カバー 5g	・紙コップ 5g
・包装紙 20g	・牛乳パック 30g	・紙のサラ 10g
・しんぶんし(あさ) 200g	・週刊誌 300g	

●古紙1tをリサイクルすると立木(高さ8m、直径14cm)が20本せつやくできます。

紙ごみを減らすには!

まずは、簡易な包装の製品を選んだり、余分な包装などはことわりましょう。

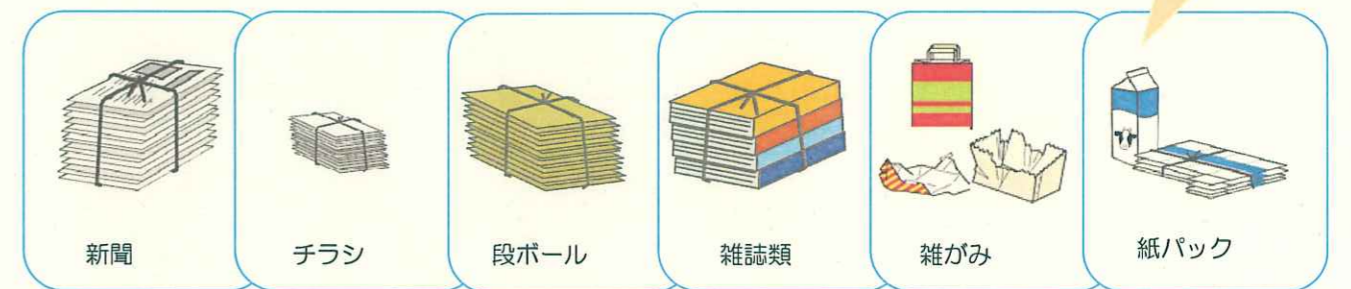
雑誌や本など使わなくなったものをバザーに出しましょう。それでも出る紙ごみはリサイクルに出しましょう。

◎紙のリサイクルは、地域の集団回収に出しましょう!

紙パックは公民館などの回収箱にも出せますよ。

古紙の分類

同じ古紙だからといって、ひとまとめにしてしまうとせっかくの資源が再生できなくなってしまいます。



※古紙は、回収業者によって分別方法が異なる場合があります。

雑がみ

家庭からでる古紙のうち、新聞・チラシ・雑誌・ダンボール・紙パックのいずれの区分にも入らないものを言います。具体的には、家庭でいらなくなつた投込みチラシ、パンフレット、コピー紙、包装紙、紙袋、紙箱などの紙全般を指します。



混ぜないで!

紙の原料にならない異物

※カーボン紙、感熱紙、印画紙の写真、インクジェット写真プリント用紙、感光紙、セロハン紙など